

三滝だより

NO. 244

2019年11月15日発行



き み しゅしょく 木の実は主食だった！

縄文時代(約12000年前から2400年前)の古代日本人が、おもに何を食べていたかは、貝塚や遺跡の調査が進むにつれて、全体像が明らかになってきました。

おもにクルミ、クリ、トチ、ドングリなどの堅果類(堅い殻をもった実)が中心でした。なかでもドングリ類の比重が高かったようです。

ドングリはシイやカシの木など、ブナ科の仲間(なかま)の木になる木の実のことです。日本では20種類(しゅるい)くらい(くらい)の木からドングリが取れますが、大きさも形も色もそれぞれ違って(ちが)いて、なかには食べられないものもあります。

では、どのようにして食べていたのでしょうか？クルミとクリはアクが少ないので、そのまま食べられますが、ドングリはそのまま食べられるものと食べられないものがあります。タンニンという

渋み(アク)が含まれているドングリはアク抜きをして食べていたようです。縄文時代の遺跡から、ドングリでつくったクッキーのような形(かたち)のものが発掘(はっくつ)されています。乾燥(かんそう)させたドングリを石の道具(いし)を使って粉(こな)にし、その粉を練(ね)ってクッキー状(じょう)にして、熱(あつ)く焼(や)いた石の上で焼いて食べていたようです。

れいわじだい 令和時代 ~ドングリのいろいろな食べ方の紹介

- ・「生」で食べる。(ツブラジイやスタジイなどアクが少ないドングリ)
- ・「ドングリごはん」にして食べる。(クリごはんと同じ)
- ・フライパンなどでいって食べる。
- ・「ドングリせんべい」にして食べる。(すりつぶしたドングリに塩、砂糖を少し加えてホットプレートなどで焼く)
- ・「ドングリクッキー」にして食べる。(バター、砂糖、卵白をまぜ、すりつぶしたドングリの粉と小麦粉を加えてホットプレートなどで焼く)



自然の家で見つけたツブラジイ(ブナ科)

公益財団法人広島市文化財団
広島市三滝少年自然の家・広島市グリーンスポーツセンター
〒733-0802 広島市西区三滝本町一丁目73番地の20
TEL082-238-6301 FAX082-238-6302
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/mitaki-c/>

あき せいざ み 秋の星座を見つけよう！

秋は空気が澄み、星の輝きを楽しめる季節ですが、夜空には明るい星が少なく、さみしい印象を受けます。しかし、秋の星空は、ギリシャ神話に登場する星座がたくさん見られ、とても賑やかです。では、その星座を一緒に見つけましょう。

まず、手がかりとなるのは、頭の上に見える大きな四角形の星の並びです。この四角形は、ギリシャ神話のペガサス（天馬）の姿を表した**ペガサス座**の一部で「**ペガサスの四角形**」と呼ばれます。そのそばに、神話のアンドロメダ姫の姿を表した**アンドロメダ座**が、そして、その東側には勇者ペルセウスの姿を表した**ペルセウス座**が輝いています。

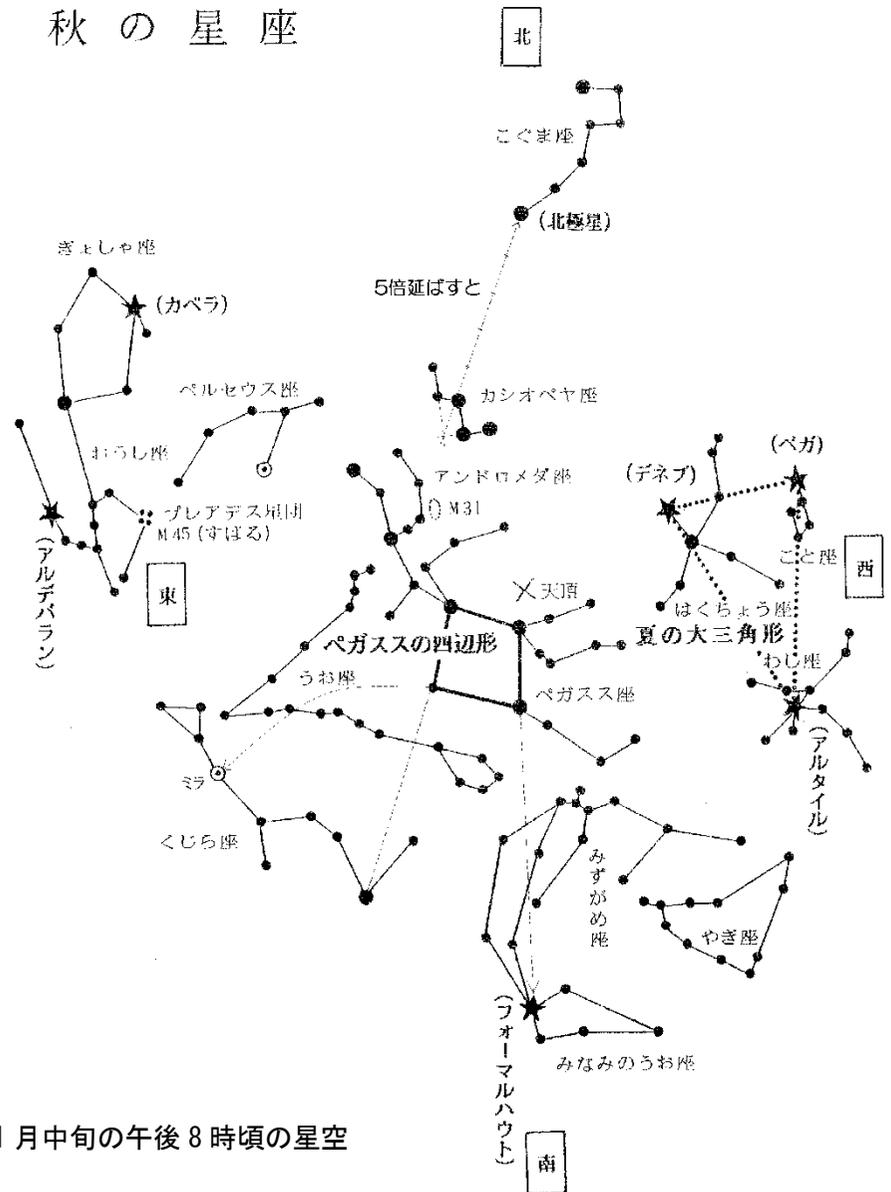
また、北の空に目をやると、Wの字の形をした**カシオペヤ座**（アンドロメダ姫のお母さんの星座）が見えてきます。秋では、北斗七星が見えにくいため、右図のように、カシオペヤ座が**北極星**を見つける大切な目印になります。そのほか**くじら座**など神話に関わる星座がすぐそばに見えます。

さて、南の地平線近くに目をやると、一つだけぼつんと黄色く輝く星が見えてきます。秋の星座でただ一つの1等星、**みなみのうお座**のフォーマルハウトです。ペガサスの四角形の一边を伸ばすことで、このフォーマルハウトを簡単に見つけることができ、とても便利な手がかりになります。

これから注目の天文現象(星空観察情報)

- 11月18日ころに、しし座流星群が、12月15日ころに、ふたご座流星群がピークになります。(流れ星がたくさん見られたらいいですね)
- 11月29日の夕方、西の空に**木星**、**金星**、**月**、**土星**が並んで輝きます。
- 12月26日の夕方、**部分日食**（広島で約1/3欠けます）が見られます。

秋の星座



11月中旬の午後8時頃の星空